

## テーマ:【母語から考える言語教育】

**講義① 窪園晴夫氏** (国立国語研究所副所長、日本言語学会会長)

### 「母語から始めることばの教育」

#### 講義概要

グローバル化によって英語の必要性が痛感され、英語の早期教育が進められています。その一方で、日本語力の低下が指摘され、外国語より母語をしっかり習得すべきであるという声もよく聞かれます。この講演では日本語話者（日本人）が実は日本語のことをよくわかっていないというパラドックスを出発点として、ことばの学習・習得に関わるいくつかの問題を検討したいと思います。具体的には、母語を使って内省することがことばの力を育むことにつながる、日本語の中でも自分の方言を出発点とすることが重要であること、言葉の多様性を学ぶことが異文化理解につながることを考察します。また日本語の標準語と地域方言の二言語併用（バイリンガル）話者を題材に、バイリンガルになることによって何が得られ、何が失われるかという問題も検討してみたいと思います。

**講義② 大津由紀雄氏** (明海大学副学長、慶應義塾大学名誉教授)

### 「日本語から英語へ(文構造)」

#### 講義概要

「文は構造を持つ」というのは日本語にも、英語にも、そして、どの自然言語（人間が母語として獲得可能な言語）にもあてはまる普遍的な原理です。「文は構造を持つ」というのは「文はそれを構成する部分を一定の方法で組み合わせて作られるものである」ということです。日本語と英語ではその組み合わせ方が若干異なっているというだけのことです。そこで、まずは直感が利く母語としての日本語を使って、「文は構造を持つ」ということについてお話しします。その上で、今度は英語について「文は構造を持つ」という原理がどう働いているのか、日本語での組み合わせ方とどこが違うのかをお話ししましょう。とても簡単(シンプル)な話なので、小学生でも高学年であれば、理解できるはずです。

**講義③ 斎藤兆史氏** (東京大学教授、日本学術会議連携会員)

### 「英語教育における日本語(母語)の意義」

#### 講義概要

外国語としての英語の教育において英語のみを教授言語とすることには、すでに日本でも英米でも多くの批判がなされている。また、たとえ授業を英語で行うにしても、教師・学習者ともに正確な英語を運用することの重要性は、すでに大正時代にハロルド・パーマーが指摘している。拙話では、「文法的な誤りを気にせず、英語で堂々とコミュニケーションを図ろうとすることが重要だ」とする昨今の英語教育の考え方が長い目で見て学習者の英語学習を阻害するとの立場に立ち、母語を手がかりとする正確な言語学習の重要性を改めて強調するとともに、教師が学習者の手本として正確な英語を学習者に伝授するための方策を提示したい。